

中国における大卒女性の文理選択に 影響を与える要因

—進路展望の視点から—

YANG Fanghui

近年、中国の女性高等学校生における文理選択が職業発展や収入格差に与える影響が注目されている。本研究は、中国の女性が文理選択を行う際の主な要因とその背景を明らかにし、それが進学志望や職業展望にどのように関連しているかを探ることを目的とする。

本研究では、35 歳以下で高等学校時代に文理分科を経験し、現在職場で働いている女性を対象にインタビュー調査を実施した。12 名の調査対象者を選出し、半構造化インタビューを通じてデータを収集した。調査はオンライン形式で行われ、主な質問項目は「文理選択時に考慮した主な要因」「進学および就職への関心度」「現職の仕事内容と満足度」「再度文理選択を行う場合の選択」の 4 つである。

本稿は、全 4 章から構成されている。

第一章では、研究の目的と背景を説明した。女性の労働市場参入と性別による賃金格差に注目し、文理選択が高等教育や職業発展において重要な分岐点となることを示した。また、性別役割分業やステレオタイプが文理選択に与える影響について論じた。

第二章では、先行研究のレビューを行い、文理選択に影響を与える学校環境、家庭環境、個人の価値観の 3 つの主要な要因についての研究、高校段階におけるトラッキングについての研究を概観した。さらに、専攻選択と賃金格差の関連性について議論し、理系専攻が文系専攻よりも高い収入を得る可能性が高いことを考慮し、その上で、専攻選択がなされる高校段階における具体的なプロセスを観察した研究の蓄積がないことを確認し、これを研究課題とすることを述べた。

第三章では、研究方法および調査結果を説明した。本研究は 12 名の女性を対象に半構造化インタビューを実施し、文理選択の主な決定要因を「成績」「興味」「発展」という 3 つの側面に分類した。その結果、進学のための現実的な判断が文理選択の中心的な要因であることが明らかになっ

た。多くのインタビュー対象者は、自身の得意科目や高得点を取りやすい科目を優先して選択しており、それが大学進学の可能性を高めると認識していることが分かった。特に、「大学に合格するために成績が最重要」という発言が複数の対象者から聞かれたことから、文理選択が、すでに形成されている科目に対する得意不得意の意識のみならず、短期的な進学目標に大きく左右される傾向が見受けられた。また、インタビューの中では、文理選択に関連する社会的偏見も浮き彫りになった。文系は「頭が悪い人が選ぶもの」といった社会的偏見や、理系に進むことが将来の選択肢を広げるといった認識も、選択時の背景要因として影響を及ぼしている可能性が示唆された。

第四章では、結論を示し、今後の課題を展望した。調査結果から、文理選択は主に短期的な目標、特に大学進学を重視する現実的な判断に基づいて行われる傾向が強いことが明らかになった。具体的には、受験で有利な科目を選択することや、学業成績を最大限に活かせる進路を選ぶことが、調査対象者にとって重要な決定要因となっている。このことは、文理選択が長期的なキャリア形成ではなく、目の前の進学目標に直結している現実を反映している。これらの結果は、教育現場における改革や、より公平な選択環境を提供するための政策的支援の必要性を示唆している。